

# めぐみイエス・キリスト教会

2024年9月15日(日) 第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第723号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌236「あだに世をば過ごし」 p. 358

【交読文】 No.46 詩篇第148篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌468「やがて天にて」 p. 754

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「アバ・父よ」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章39節～42節(新約p. 122下段)

【礼拝説教】 《盲人と目のちりと目の梁》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章39節～42節)

6:39 イエスはまた、彼らに一つのたとえを話された。「盲人が盲人を案内できるでしょうか。二人とも穴に落ち込まないでしょうか。

6:40 弟子は師以上の者ではありません。しかし、だれでも十分に訓練を受ければ、自分の師のようにはなります。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分自身の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。

6:42 あなた自身、自分の目にある梁が見えていないのに、兄弟に対して『兄弟、あなたの目のちりを取り除かせてください』と、どうして言えるのですか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、兄弟の目のちりがはっきり見えるようになって、取り除くことができます。

### ●ポイント1.「盲人」とは？

※マタイの福音書15章12節～14節「同一平行記事から」(新約p.31)

15:12 そのとき、弟子たちが近寄って来てイエスに言った。「パリサイ人たちがお言葉聞いて腹を立てたのをご存じですか。」

15:13 イエスは答えられた。「わたしの天の父が植えなかった木は、すべて根こそぎにされます。」

15:14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を案内する盲人です。もし盲人が盲人を案内すれば、二人とも穴に落ちます。」

### ●ポイント2.「自分の師のように」とは？

※エペソ人はの手紙4章32節「主イエス様の教えから」(新約p.389)

4:32 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

### ●ポイント3.「ちりと梁」とは？

※ピリピへの手紙2章3節「使徒パウロの勧めから」(新約p.396)

2:3 何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。

※ヨハネの福音書15章12節「最後の晩餐の時に」(新約p.216)

15:12「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これが私の戒めです。」

## ◎先週の礼拝メッセージ【さばいてはいけません】

《「さばいてはいけません。」ここでは、命令形が使われています。よって、すべてのクリスチャンに対する主の命令であることが分かります。

マタイの「山上の垂訓」における平行記事によりますと、『「さばいてはいけません。自分がさばかれないためです。あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです。」』と書かれています。

ここで、主イエスは、「自分が量る秤」と言われています。つまり、その人自身の中に、物差しがあるということです。その中心は、紛れもなくその人自身の自我であり、「自分は正しい」という主張なのです。

また、人が人をさばく時、その人は、神の領域を侵していることとなります。なぜなら、主イエスは、『「また、父は誰をもさばかず、全てのさばきを子に委ねられました。」』と、言われているからです。

主イエスこそ、さばき主なのです。一度目は、救い主として来られました。二度目には、さばき主として来られることとなります。

「人を不義に定めてはいけません。」現代訳では、「人を罪に定めてはいけません。」となっています。さて、さばかない為には、あるいは罪に定めない為には、どうしたら良いのでしょうか。その答えが、「赦しなさい」と言うことなのです。使徒パウロは、さらに『互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦して下さったのです。』と、勧めています。

そして、次に主イエスが言われたことは、『「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。」』と言うことです。神様の法則は、私たちが「与えることが先決」だと言うことです。実は神様の方から、すでに私たちに与えて下さったのです。それが、御子イエス・キリストの十字架です。ここに神の愛があるのです。すべては恵みです。私たちが持っているものすべてが、神様の御手から出ているからです。》

### お知らせ

※次回は9月22日(日)第四主日礼拝は、午前10時から行ないます。